

2014(平成26)年度決算について

学校法人 桃山学院
理事長 水谷 和生

2014(平成26)年度学校法人桃山学院の決算は、監査法人ならびに監事の監査を経たうえで、2015年5月26日(火)開催の理事会で承認されました。ここに決算概要の説明と決算諸表の公開を以下のとおり行ないます。

[決 算 概 要]

(1)資金収支計算書

資金収支計算書は、年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容を明らかにするとともに、支払資金の顛末も明らかにする書類です。ここでは、予算額との比較で説明します。

2014年度の決算は収入の部合計で3億1,003万円増の176億5,795万円となりました。これは、補助金収入、手数料収入(入学検定料)前受金収入(主に入学金)およびその他の収入(長期貸付金の回収収入など)などが見込み額よりも上回ったためです。

一方、支出の部では、人件費の見直しに加え、経常費の節減により、管理経費支出などが減少し、次年度繰越支払資金を除く支出合計で5億6,661万円の減となりました。

このように収入増、支出減の結果、次年度繰越支払資金は8億7,663万円増加の63億5,883万円となりました。

(2)消費収支計算書

消費収支計算書は、消費収入と消費支出の内容を明らかにし、消費収支の均衡状態(経営状態)をあらわすもので、企業会計の損益計算書に該当するものです。ここでは、予算額との比較で説明します。

まず基本金組入額を控除する前の帰属収入合計においては、1億917万円増の106億2,855万円となりました。これにつきましても、資金収支計算書で述べました手数料、補助金の増が主な要因です。

基本金組入額につきましては、4億334万円減の6億9,506万円となりました。その中身につきましては、図書や備品関係といった恒常的な取得資産の他に、キャンパス整備事業計画に基づく学舎等の改修や第2号基本金への組入れに関するものがあります。

そこで、帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入合計は、99億3,349万円となり、5億1,251万円増加しました。

消費支出につきましては、学舎の改修に伴う旧施設の除却による資産処分差額が増加した以外は、人件費をはじめとする他の科目においては減少し、合計で98億5,435万円となり、2億6,681万円減少しました。

その結果、当年度消費収支は7,914万円の収入超過となり、加えて基本金について過年度からの繰延高および当年度の除却額を合わせた計7,745万円を取り崩したことによ

り、翌年度繰越消費収入超過額は37億4,965万円となりました。

また、一般に「経常収支」と言われる帰属収支差額につきましては、3億7,598万円増の7億7,420万円となり、帰属収支差額比率は3.49ポイント増の7.28%となりました。

(3) 貸借対照表

貸借対照表は期末における学院の財政状態を示します。ここでは、前年度決算額との比較で説明します。

まず資産の部ですが、有形固定資産では、大規模な設備投資がなかったものの、和泉キャンパス中長期改修計画に基づく設備機器等の更新により、減価償却等をふまえた資産の減少は3億4,336万円となりました。その他の固定資産は、長期貸付金の減などがありました。減価償却引当資産の恒常的な積み立て増などにより9億1,349万円増加し、結果、固定資産合計では5億7,013万円の増加となりました。

流動資産は、現金預金の増などにより、合計で2億6,101万円の増加となりました。総資産額は、8億3,114万円増の834億8,698万円となりました。

負債の部では、固定負債において退職給与引当金の減や長期未払金（リース債務）の減があったものの、流動負債における預り金の増や前受金の増などにより、負債合計で5,694万円の増加となりました。

したがって、純資産額（総資産額 - 総負債額）は2013年度末に比して、7億7,420万円増の783億2,295万円となり、総資産額に占める割合は前年度末と同じく93.8%となりました。

なお、各々の科目の数値等につきましては別掲「各種計算書類」を、上記財務3表における実績ベースでの経年の概況・比較につきましては決算経年推移資料をご覧ください。

以 上

2014年度 資金収支計算書
2014年度 消費収支計算書
2014年度 資金収支・消費収支内訳表
2014年度 貸借対照表
2014年度 財産目録総括表
2014年度 収益事業部決算報告
2014年度 決算経年推移資料